

令和6年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第2回 啓発研修部会・地域支援部会の合同会議 次 第

日 時 令和6年12月12日（木）19：15～20：30（予定）
場 所 オンライン

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

（1）報告事項

在宅医等養成研修・専門職研修について （資料1）

（2）協議事項

ACP（人生会議）の普及啓発について（案） （資料2）

4 閉 会

<配付物>

- ・次第
- ・委員名簿
- ・資料1 在宅医等養成研修・専門職研修について
- ・資料2 ACP（人生会議）の普及啓発について（案）

令和6年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会

啓発研修部会 委員名簿

(氏名50音順)

	所 属	氏 名 (敬称略)
委員	一般社団法人 静岡市ケアマネット協会	近藤 久美子
委員	静岡市訪問看護ステーション連絡会	坪井 早苗
委員 (臨時)	一般社団法人 静岡市静岡医師会	平野 周太
委員	一般社団法人 静岡県医療ソーシャルワーカー協会	矢野 裕基
部会長	一般社団法人 静岡市清水医師会	吉永 治彦

地域支援部会 委員名簿

(氏名50音順)

	所 属	氏 名 (敬称略)
委員	市民委員	石上 喜久乃
部会長	静岡市駿河区長田地域包括支援センター	小作 徳光
委員	市民委員	小長井 隆
委員	一般社団法人 静岡市ケアマネット協会	近藤 久美子
委員 (臨時)	JA静岡厚生連 清水厚生病院	成島 道樹

令和6年度 静岡市在宅医等養成研修事業(清水医師会)

令和6年9月10日開催アンケート集計

参加者(人)	アンケート回答者(人)	回収率(%)
80	52	65.0

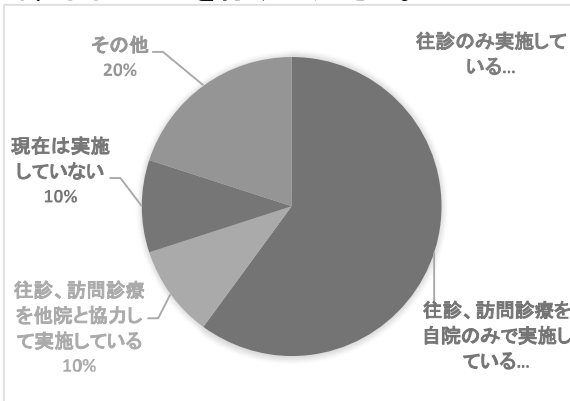
内科	外科	皮膚科	消化器科	泌尿器科	未記入	計
7	1	0	0	1	1	10

看護師	保健師	薬剤師	介護支援 専門員	福祉用具 専門相談	訪問 マッサー	計
13	2	6	19	1	1	42

1. 現在の在宅医療の実施状況について、該当するものに☑を付けてください。※医師のみ回答

	項目	回答者数	回答率
(1)	往診のみ実施している	0	0.0%
(2)	往診、訪問診療を自院のみで実施している	6	60.0%
(3)	往診、訪問診療を他院と協力して実施している	1	10.0%
(4)	現在は実施していない	1	10.0%
(5)	その他	2	20.0%

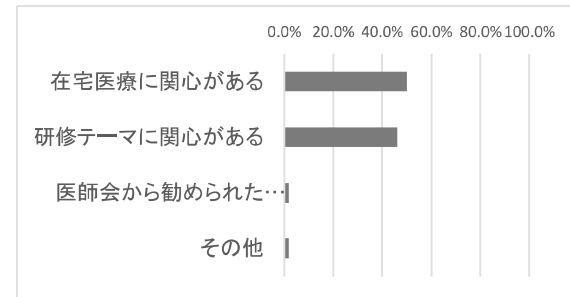
※その他の内容 ・研修生活



2. 本日の研修に参加しようと思った理由に☑を付けてください。

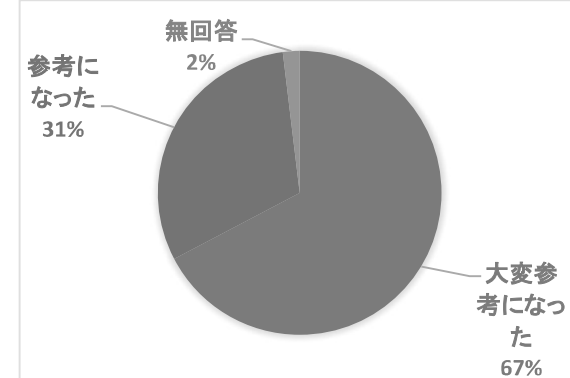
	項目	回答者数	回答率*
(1)	在宅医療に関心がある	26	50.0%
(2)	研修テーマに関心がある	24	46.2%
(3)	医師会から勧められたから	1	1.9%
(4)	その他	1	1.9%

※その他の内容 ・IPCに参加しているため



3. 本日の感想について、該当するものに☑を付けてください。

	項目	回答者数	回答率
(1)	大変参考になった	35	67.3%
(2)	参考になった	16	30.8%
(3)	普通	0	0.0%
(4)	参考にならなかった	0	0.0%
(5)	無回答	1	1.9%



令和6年度 静岡市在宅医等養成研修事業(静岡医師会)

令和6年10月26日開催アンケート集計

参加者(人)	アンケート回答者(人)	回収率(%)
109	104	95.4

職種

医師	保健師	看護師	薬剤師	ケアマネジャー	介護職	リハビリ職	社会福祉士	その他
4	4	26	8	30	6	11	12	3

勤務施設

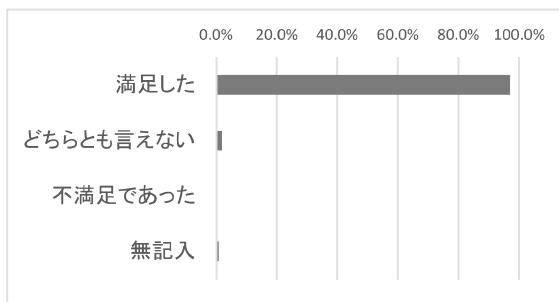
病院	診療所	薬局	訪問看護 ステーション	居宅介護支 援事業所	介護 事業所	介護保険 施設	地域包括 支援センター	その他
22	7	8	17	22	6	4	16	2

1. 時間配分について

	長い	丁度よい	短い	無記入
(1) 全体	0	99	4	1
(2) 講演	0	101	1	2
(3) 事例紹介	0	99	3	2
(4) グループワーク	0	85	15	4

2. 内容について

	項目	回答者数	回答率
(1)	満足した	101	97.1%
(2)	どちらとも言えない	2	1.9%
(3)	不満足であった	0	0.0%
(4)	無記入	1	1.0%



3. 静岡市版エンディングノートの活用について

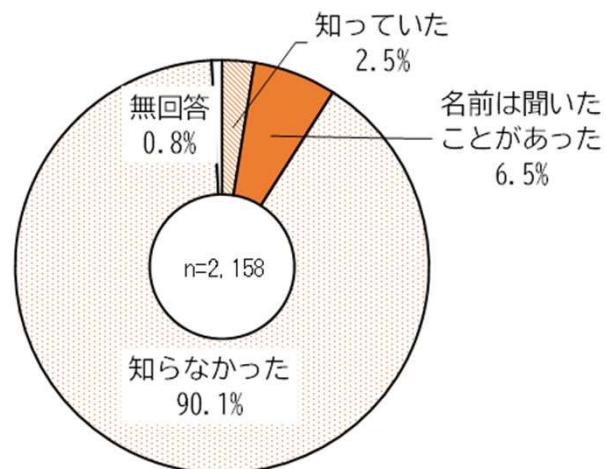
	ある	ない	無記入
(1) これまで活用したことがありますか	23	77	4

	今後活用してみたいと思いますか	思う	思わない	無記入
(2)	自身及び近親者に対して	92	7	5
	業務の中で患者利用者に対して	87	6	11

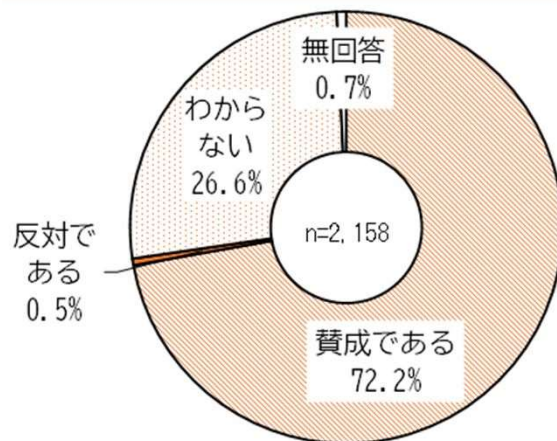
ACP（人生会議）の普及啓発について（案）

資料 2－1

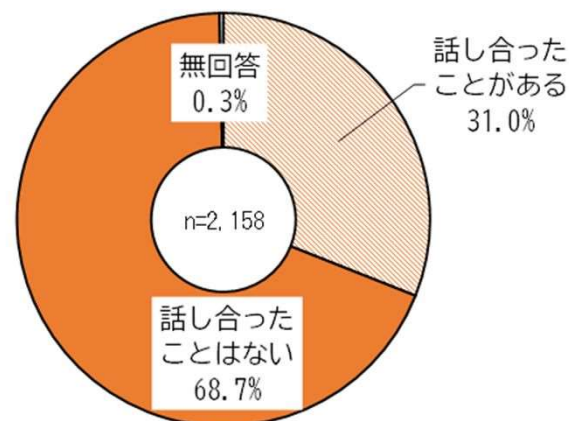
1. ACP（人生会議）について知っているか



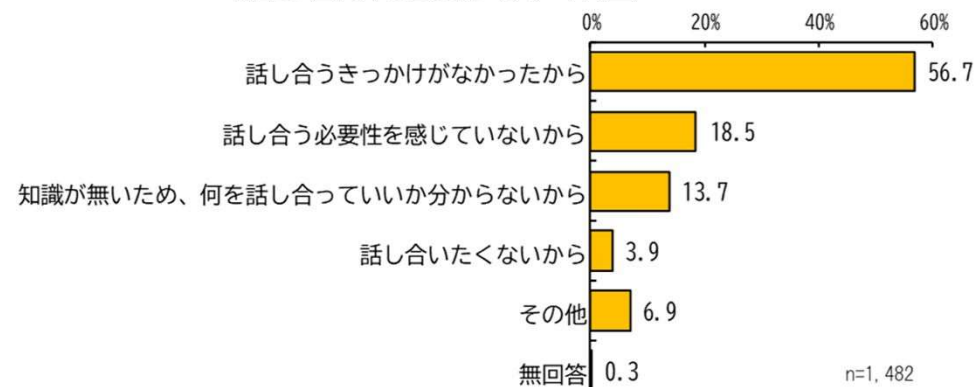
2. 自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、あらかじめ話し合いを進めることをどう思うか



3. 人生の最終段階における医療・ケアについて話し合ったことはあるか



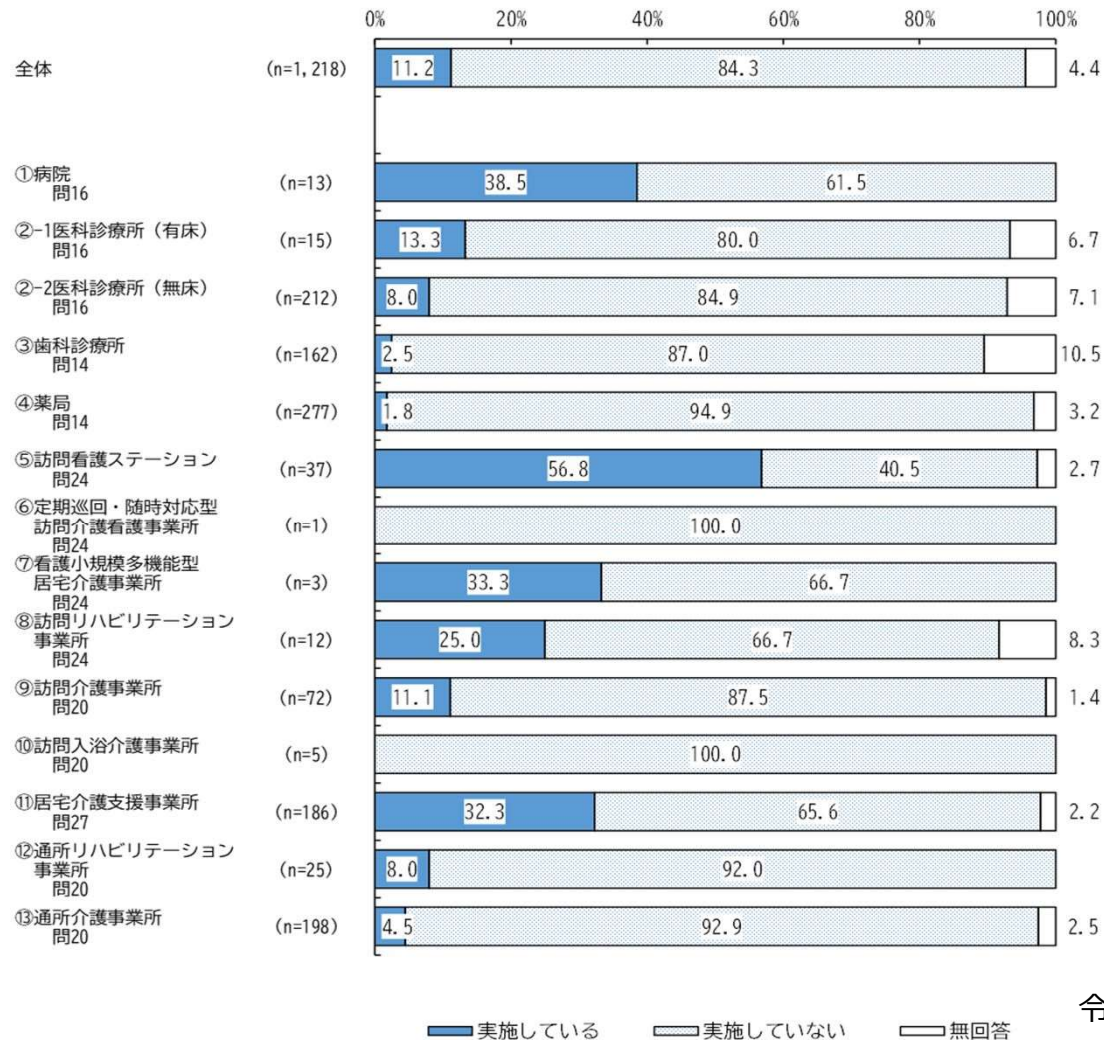
4. 人生の最終段階における医療・ケアについて話し合ったことがない理由



人生会議（ACP）に関する市民意識調査、令和4年3月、静岡市

ACP（人生会議）の普及啓発について（案）

1. ACP（人生会議）を実施しているか



2. ACP（人生会議）を実施していない理由

（複数回答）

（全1,027件）

- ①「話し合いのためのノウハウがない」 467件
- ②「対象となる患者がいない」 339件
- ③「話し合う余裕がない」 256件
- ④「話し合うきっかけがなかった」 238件

3. ACP（人生会議）の推進に必要と思われるもの

（複数回答）

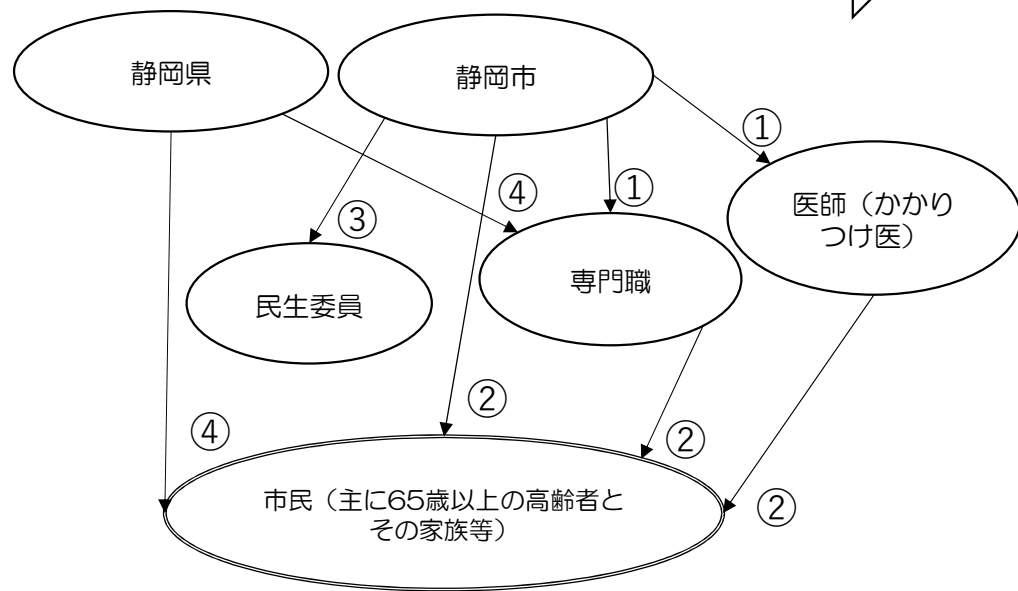
（全1,218件）

- ①「ACPを実施するためのツール（パンフレット等）」 580件
- ②「行政や関係団体が主催する研修や勉強会への参加」 549件
- ③「時間的余裕や人員の配置等の体制整備」 545件
- ④「貴機関内での研修や勉強会の実施」 512件

令和4年度在宅医療の提供と連携に関する実態調査、令和4年11月、静岡市

ACP（人生会議）の普及啓発について（案）

第一段階～知る～



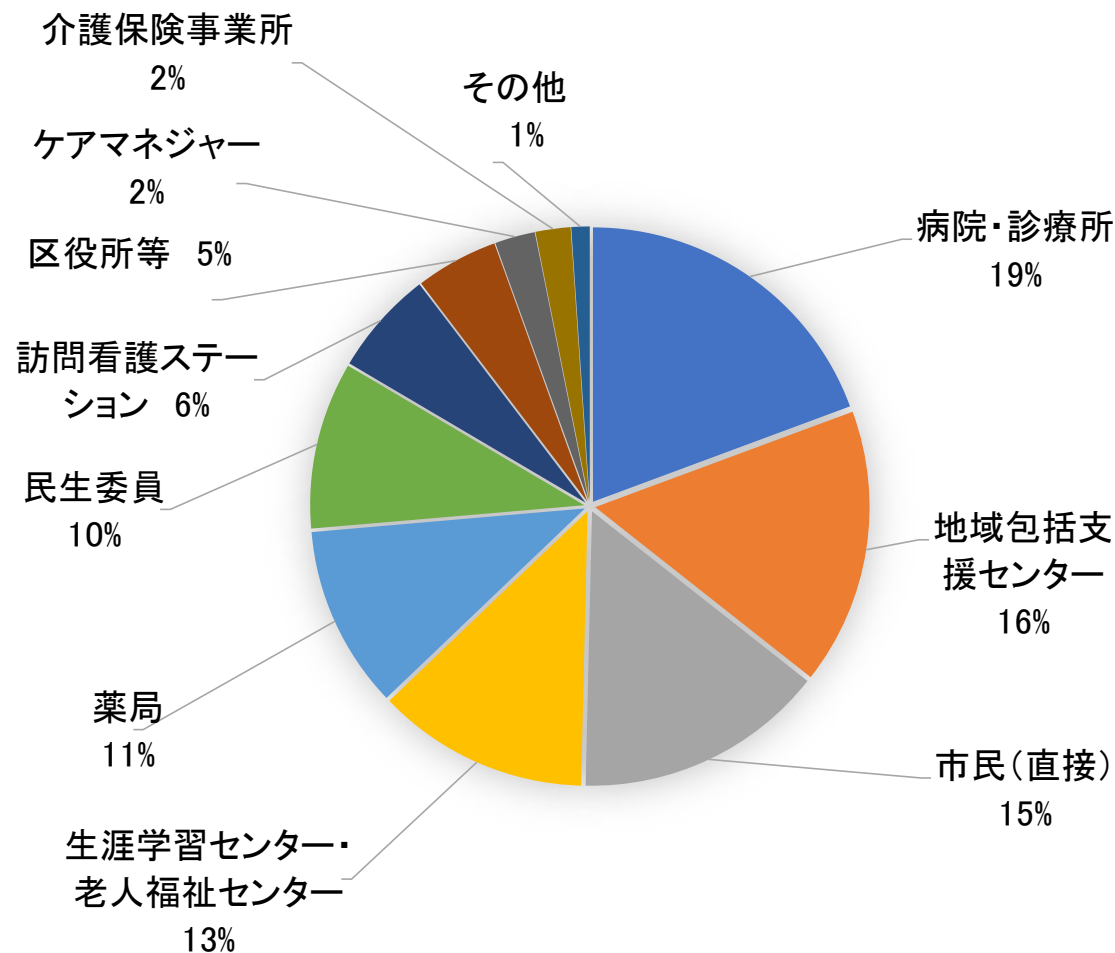
●静岡市の取組

- ①医師会員や各団体の専門職へエンディングノートを配布し、ACPの取組について意識づけを図る
- ②報道等によるエンディングノートの紹介、医師・専門職からエンディングノートの手交を通して、市民がACPについて知る機会を提供する
- ③民生委員へエンディングノートを配布し、ACPについて知る機会を提供する

●静岡県の取組

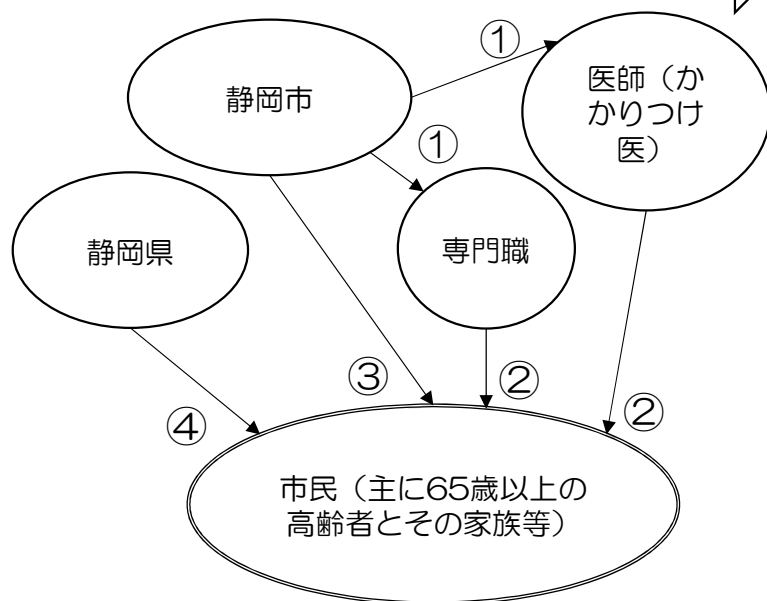
- ④ACPに関する講演会を行い、市町のエンディングノートについて紹介し、市民がACPについて知る機会を提供する

エンディングノートの配布状況（令和6年10月末時点）



ACP（人生会議）の普及啓発について（案）

第二段階～やってみる～



●静岡市の取組

- ①医師や専門職が研修等により、ACPやエンディングノートの利活用に関する取組を共有する
- ②市民が、医師や専門職と共にACPの取組を進める
- ③市民へエンディングノートの利活用に関する動画を配信し、取組を促す

●静岡県の取組

- ④エンディングノートを通じたACPの実践についてセミナーを行い、市民のACPの取組をより推進する

①専門職向け研修

【葵・駿河区の専門職向け】

- ・座長：門磨 義隆 医師
- ・講師：平野 周太 医師
- ・事例発表：平野 周太 医師
白鳥 文香 ケアマネジャー
細川 真理子 訪問看護師
大瀧 梨紗子 介護福祉士
- ・内容：エンディングノートの利活用、ACP実践事例の共有、グループワーク
- ・時期：令和6年10月26日(土)
- ・場所：グランシップ 交流ホール
- ・参加人数：109人

【清水区の専門職向け】

- ・座長：吉永 治彦 医師
- ・講師：平野 周太 医師
- ・内容：ACPのすすめ方
エンディングノート利活用
- ・時期：令和6年9月10日(火)
- ・場所：カーニブレイズ清水・オンライン
- ・参加人数：80人

②③市民向け普及啓発

【広報】

- ・市公式HPにて動画配信
- ・新聞掲載
- ・広報しずおか掲載
- ・ラジオにて紹介
- ・広告付き窓口番号案内表示システムにて放映（令和6年12月）

【講座】

- ・主催：地域包括支援センター
生涯学習センター・交流館
- ・講師：医師、看護師、ケアマネジャー、行政書士、ファイナンシャルプランナー、終活カウンセラー協会認定終活講師
- ・内容：エンディングノートの書き方教室
人生会議とお墓のはなし
WELL-BEING教室
私らしい老い支度
相続の話 人生の棚卸し 等

【回覧版】

- ・回覧元：地域包括支援センター
- ・内容：エンディングノートを作ってみませんか？

エンディングノートの普及啓発にかかる課題と対応案

【課題】

- ・専門職からエンディングノートを勧めるきっかけがつかみにくい

【対応案】

- ・ACPやエンディングノートについて紹介するリーフレット（別紙案参照）を作成し、市内公的機関での配架や関係団体の専門職からの配付を通して市民へ広く普及啓発を図る
- ・ACPやエンディングノートについて、広報、SNS、ラジオ等様々なメディアにより紹介し、市民の意識の底上げを図る
- ・在宅医療・介護出前講座でACPやエンディングノートに関する講義を行う
- ・ACPやエンディングノートの取組に関する好事例を、市公式HPへの掲載や研修・講座等で紹介する



「終活」について考えてみませんか？

資料 2 - 2

終活、それは**これから自分らしく生きるための大切な一歩**です。

「終活」という言葉が生まれ、多くの人々がそれを知るようになりました。

ですが、「終活」という言葉から思い浮かべる事は、人それぞれ違うようです。



葬儀の事前準備、お墓の購入、遺言書の作成、身の回りの事や、持ち物の整理といった旅立ちのときや、その後のことを「**生前に準備すること**」



延命治療や緩和ケアなど「人生の最終段階における医療」や、介護が必要になったり、認知症になったときのことを決めておくなど、これからを「**安心して過ごすために備えること**」



趣味や旅行、家族や友人との時間を楽しむなど、これからの人生を「**自分らしく充実して生きること**」



人生会議(ACP)とは

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組です。

あなたのこれまでやこれからについて思いを整理したり、**あなたの思いを家族や大切な方に伝えましょう。**



このエンディングノートは、「終活」を始めるきっかけとして、「終活」を進めるための記録を残すノートとして、お使いいただくものです。

エンディングノートのダウンロードはこちらから
～ノートの書き方についての動画も配信中～



配架先 ◆地域包括ケア・誰もが活躍推進本部(静岡庁舎14階)
◆各地域包括支援センター
◆各區市民相談室

エンディングノートの利活用について

静岡市公式HPの上でYouTube動画を公開しました。

HPをご覧ください。

静岡市 地域包括ケアシステム

検索

「終活」をスムーズに進めるために「終活支援事業者」を活用する方法もあります。

静岡市は優良な事業者を認証しています。

.....◆ 詳しくはHPをご覧ください。

静岡市終活支援優良事業者認証事業

検索



《《エンディングノートの抜粋》》

もしものときの医療の希望

もしものときに、あなたに病名や余命を告知しなければならないときや、延命処置等をするかどうかについて、判断をお願いする場合があります。そのためのために記入しましょう。主治医（かかりつけ医）がいる方は一緒に考えていくとよいでしょう。

告知について

- ☐ 重大な病気の場合は教えてほしくない
☐ どんな病気でも教えてほしい

経口摂取（口から食べること）以外での栄養摂取

- ☐ 点滴による栄養摂取（中心静脈栄養（カロリーの高い点滴栄養））の処置を希望する
☐ 経鼻経管栄養摂取（鼻からチューブを入れて栄養剤を入れる）の処置を希望する
☐ 胃ろう（胃に直接栄養チューブを入れる）の処置を希望する
☐ できる限り自然に任せて欲しい
☐ 判断をご家族や大切な人に任せたい

回復の見込みがなく、死期が迫った場合の延命処置について

※延命処置（気管切開、人工呼吸器、心臓マッサージなど）は、一度始めると途中でやめることは難しいため、よく考えて記入しましょう。

- ☐ どんな場合でも、延命処置はしないでほしい
- ☐ どんな場合でも、延命処置をしてほしい
- ☐ 延命よりも苦痛を少なくすることを重視してほしい
- ☐ 可能性があるなら、延命処置を望みたい（してほしい）

臓器提供や献体について

- ☐臓器提供の手続きは済んでいる（意思表示カードの保管場所： ）
☐献体の手続きは済んでいる（献体についての登録団体： ）
☐臓器提供や献体を希望する **※登録をしないと手続きはできません**
☐臓器提供や献体はしたくない

介護の希望

もし、あなたが認知症やその他の病気、ケガ等によって、判断能力がなくなったりコミュニケーション能力が低下したりしたときのために、自分の考えや希望を記入しておきましょう。

どんな介護を望みますか

- ☐ 自宅で家族にお願いしたい
☐ 自宅でヘルパー等のサービスを利用しながら、家族と過ごしたい
☐ 特別養護老人ホーム・認知症対応型グループホーム・有料老人ホーム等の高齢者施設に入りたい

▶ 介護をしてくれる人に伝えたいこと

あなたの考えを記入しておきましょう。

--

「終活」について考えてみませんか？

終活、それは**これから自分らしく生きるための大切な一歩**です。

「終活」という言葉が生まれ、多くの人がそれを知るようになりました。

ですが、「終活」という言葉から思い浮かべる事は、人それぞれ違うようです。



葬儀の事前準備、お墓の購入、遺言書の作成、身の回りの事や、持ち物の整理といった旅立ちのときや、その後のことを「**生前に準備すること**」



延命治療や緩和ケアなど「人生の最終段階における医療」や、介護が必要になったり、認知症になったときのことを決めておくなど、これからを「**安心して過ごすために備えること**」



趣味や旅行、家族や友人との時間を楽しむなど、これからの人生を「**自分らしく充実して生きること**」

人生会議(ACP)とは

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組です。

あなたのこれまでやこれからについて思いを整理したり、**あなたの思いを家族や大切な方に伝えましょう。**



エンディングノートの利活用について

静岡市公式HPの上でYouTube動画を公開しました。

HPをご覧ください。 [静岡市 地域包括ケアシステム](#) [検索](#)

このエンディングノートは、「終活」を始めるきっかけとして、「終活」を進めるための記録を残すノートとして、お使いいただくものです。

エンディングノートのダウンロードはこちらから
～ノートの書き方についての動画も配信中～



配架先 ◆地域包括ケア・誰もが活躍推進本部(静岡庁舎14階)
◆各地域包括支援センター
◆各區市民相談室

「終活」をスムーズに進めるために「終活支援事業者」を活用する方法もあります。

静岡市は優良な事業者を認証しています。

詳しくはHPをご覧ください。 [静岡市終活支援優良事業者認証事業](#) [検索](#)



エンディングノートの抜粋

もしものときの医療の希望

もしものときに、あなたに病名や余命を告知しなければならないときや、延命処置等をするかどうかについて、判断をお願いするときがあります。そのときのために記入しましょう。主治医（かかりつけ医）がいる方は一緒に考えていくとよいでしょう。

●告知について

- ☐ 重大な病気の場合は教えてほしくない
- ☐ どんな病気でも教えてほしい

●経口摂取（口から食べること）以外での栄養摂取

- ☐ 点滴による栄養摂取（中心静脈栄養（カロリーの高い点滴栄養））の処置を希望する
- ☐ 経鼻経管栄養摂取（鼻からチューブを入れて栄養剤を入れる）の処置を希望する
- ☐ 胃ろう（胃に直接栄養チューブを入れる）の処置を希望する
- ☐ できる限り自然に任せて欲しい
- ☐ 判断をご家族や大切な人に任せたい

●回復の見込みがなく、死期が迫った場合の延命処置について

※延命処置（気管切開、人工呼吸器、心臓マッサージなど）は、一度始めると途中でやめることは難しいため、よく考えて記入しましょう。

- ☐ どんな場合でも、延命処置はしないでほしい
- ☐ どんな場合でも、延命処置をしてほしい
- ☐ 延命よりも苦痛を少なくすることを重視してほしい
- ☐ 可能性があるなら、延命処置を望みたい（してほしい）

●臓器提供や献体について

- ☐ 臓器提供の手続きは済んでいる（意思表示カードの保管場所： ）
- ☐ 献体の手続きは済んでいる（献体についての登録団体： ）
- ☐ 臓器提供や献体を希望する ※登録をしないと手続きはできません
- ☐ 臓器提供や献体はしたくない

介護の希望

もし、あなたが認知症やその他の病気、ケガ等によって、判断能力がなくなったりコミュニケーション能力が低下したりしたときのために、自分の考えや希望を記入しておきましょう。

●どんな介護を望みますか

- ☐ 自宅で家族にお願いしたい
- ☐ 自宅でヘルパー等のサービスを利用しながら、家族と過ごしたい
- ☐ 特別養護老人ホーム・認知症対応型グループホーム・有料老人ホーム等の高齢者施設に入りたい

●介護をしてくれる人に伝えたいこと

あなたの考えを記入しておきましょう。